

# 業界の声



● 協同組合山梨県鉄構工業会

専務理事 中込壹幸氏

## 厚生労働大臣表彰を

## 受賞されたそうですが？

組合の山梨県鉄構認定職業訓練校（昭和57年開校）の訓練担当教務職員としてこの11月に表彰をいただきました。職業訓練校には、溶接技術・検査技術・クレーン操作など9学科があり、これまでの25年の受講学科数で延べ3千名が終了しています。

当組合の職業訓練校は、組合員の鉄骨工場のグレード認定制度と密接に結びついています。この工場認定制度は、工場の設備と従業員の溶接などの資格により、HからJまでの4グレードに分けられ施工できる物件の大きさが決められています。

従業員の資格取得がグレード認定と受注物件の大きさに結びつくため、業界の人材育成制度としての職業訓練校の役割は大きいと思います。

## 組合運営で心がけていることは？

「組合員への情報伝達をしっかりと行い、組合の運営を円滑にすること」を心がけています。

当組合では、月始めに3つの部会と3つの委員会と理事会が開催され、組合運営に必要な様々な事項が検討・決定されます。その結果をすべて議事録にして全組合員に郵送しています。その後、支部会が開かれ、組合の部会・委員会・理事会で決定したことが再確認され、実行に移されます。また、支部会で出された意見が、次の部会・委員会・理事会にフィードバックされるといようなサイクルをとって組合運営がなされています。

全部の議事録を遅滞なく作ることは事務局として大変な作業ですが、組合の意志決定と運営を円滑にするためには必要なことだと考えています。

## これからの鉄構業界は？

昨年の耐震偽装問題以降、建物の設計仕様書に鉄骨事業者の工場グレードが指定がされるようになってきています。組合員の経営の安定化のためには、これから技術力を高める必要があります。組合としてもしっかりと支援をしていく必要があると思います。